

警戒種

ヒロハフウリンホオズキ

-大豆畑への侵入が危惧される雑草-

同定のカギ

- ・葉は先の尖った鋸歯がある卵形
- ・花は淡黄色、果実は液果で緑色のホオズキ状の萼に包まれる。



ヒロハフウリンホオズキの幼植物



果実からまとまって発生したヒロハフウリンホオズキ

発生生態

ほぼ全国で分布が確認されており、温暖地以南において畑雑草として問題となる。出芽は、4月から10月ぐらいまで長期にわたり、大豆の生育が不良となると除草剤による防除が行われた後に出芽したものも問題となる。しばしば果実からまとまって発生し、除草剤の防除効果が減ることがある。開花は短日で促進され、9月以降に出芽したものは、植物体が小さくても開花・結実する場合がある。

雑草害

発生密度が1本/m²以下と低い場合でも、個体サイズが大きいいため収穫物の汚粒の原因や収穫作業の障害となる。暖地の大豆作における必要除草期間は播種後3-4週間程度である。



ダイズを覆い尽くすヒロハフウリンホオズキ



ヒロハフウリンホオズキの果実



ヒロハフウリンホオズキのまん延圃場

防除のポイント

畦畔および畦畔際の日が良く当たる場所に生育した個体は大量の種子を生産するので、畦畔では結実前に刈り払いや効果のある除草剤、畦畔際では刈り払いや手取りで防除する。

水稲との田畑輪換でも埋土種子は減らない。乾田直播栽培では乾田期に発生した個体は入水後も死滅せずに生育する。

ヒロハフウリンホオズキ

Ver.1

お問い合わせ
農研機構

植物防疫研究部門

雑草防除研究領域

029-838-8421(広報)

九州沖縄農業研究センター

暖地水田輪作研究領域

0942-52-3101(代)



Physalis angulata L.



大豆作付け前に発生したヒロハフウリンホオズキ

耕種的防除

大豆播種前に発生したものは、耕起によって確実に埋没させる。生育が進んでいて完全な埋没が難しいようであれば効果のある非選択性除草剤を耕起前に使用する。



中耕・培土後に大豆株間に残存したヒロハフウリンホオズキ

機械的防除

中耕・培土によって条間のヒロハフウリンホオズキを防除できる。株間の防除効果は十分ではないので、他の防除法を組み合わせる。



畦間・株間処理による防除

化学的防除

有効な土壌処理剤と茎葉処理剤の組み合わせによる体系処理。ベンタゾン液剤(大豆バサグラン液剤)の効果は低い。

発生期間が長いので、大豆播種時と生育期の体系的な防除を基本とする。土壌処理剤ではリニュロンを含有する除草剤、茎葉処理剤ではフルチアセットメチル乳剤およびリニュロン水和剤、非選択性除草剤ではグルホシネート液剤やグルホシネートPナトリウム塩液剤の効果が高い。

リニュロン水和剤や非選択性除草剤は、大豆茎葉に接触すると薬害が生ずるので、畦間・株間処理あるいは畦間処理で防除する。

また、ベンタゾン液剤の効果は低い。

除草剤情報(生育期に処理する除草剤)

大豆播種前、大豆出芽前、畦間処理ではこのほかにも効果のある除草剤があります。

※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

除草剤	薬量	処理方法・時期
フルチアセットメチル乳剤 (アタックショット乳剤)	30-50mL/10a	だいたい2~4葉期、全面散布
リニュロン水和剤 (ロックス水和剤)	100-200g/10a	畦間・株間処理、収穫30日前まで
グルホシネート液剤 (バスタ液剤)	300-500mL/10a	畦間・株間処理、収穫28日前まで
グルホシネートPナトリウム塩液剤(ザクサ液剤)	300-500mL/10a	畦間処理、収穫28日前まで

参考文献

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七編著 2001 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」の成果に基づいて作成されました。

まん延を防止するために

ヒロハフウリンホオズキ

2018.3
作成版